

水源禅師法話集 62

(2016年9月21日 大阪合宿5日目)

2017年3月19日
一乗禅の会



目次

水源禅師法話.....	1
死の瞑想.....	1
正しい見方で「渴望」をうまく使えば、次々と仏の世界に生まれることが出来る.....	8
「渴望」をどういう風な方向に持って行くかで決定される.....	10
お釈迦様とデーヴァダッタの不思議な因縁.....	11
へびさんは後の舍利弗、ネズミさんは後の大目連、オウムさんは後のアーナンダ.....	12
小さな蚊を弓矢で撃ち落とそうとする「Fool」愚か者.....	14
全世界は3つの都市に制圧されているが、法を受け取る土壌が出来ている日本.....	15
質疑応答.....	17
現代の社会は正しく見られない様に作られている.....	17
心に仏を入れなければ魔が入る.....	17
「うぬぼれ」「無知」「欲望」この3つが入っていなければ正しい見方.....	18
実態は超スーパーテクノロジーで綿々と続いている.....	19
宇宙人もかなわないスーパー叡智で出来ているダンマ・仏教.....	21
瞑想は「体験者」だけが書ける、通訳者は書けない.....	21

水源禪師法話

死の瞑想

【水源師】

まずお経を私が読みながら解説して、その後実際にどういう風に瞑想して行くのか、説明したいと思います。はい、それではマラナーヌッサティ(MARANĀNUSSATI:死随念)。
Meditation of death、死の瞑想。

MARANĀNUSSATI

(パーリ語読経)

Pavāta dīpa tullyāya — Sāyu santati yākkhayam

死の、死においてそれを知るという事は、この灯の炎と比較して下さい。

Parūpamāya sampassam — Bhāvaye maranassatim.

この炎をそよ風の吹く所に置いて、そしてその死を瞑想して下さい。

【水源師】

その時どういう風に死の瞑想をするかと言ったら、10人の死を実際に体験する事が要求されます。例えば親族の方とか友人とか、実際に10人の死を見る事が必要です。ところが今西洋では葬式でも死体を見せる事は少ないと思いますけれども、西洋では棺桶からその顔を見る事が出来ますけれども。その10名の死が必要なのです。それを見る必要が。南方では幾らでも見られますけれども、西洋社会では何故か見せない様にしています。カナダでもアメリカでも。

つまり死について一切考えない様に、人間の生きるという事を見せない様にしています。正式には。だからここで今10人の死を見た体験がありますか？誰か？ここで。あ、じゃあ合格。すぐ出来ます。お医者さん、はい、ああそうですか、素晴らしいです。普通はなかなか見られないです。一般の方は。で、出来るだけこう思い出して。一人、二人、三人でも何とか。

もし足りない時は、実際のドキュメントで死んだ映像とかあるでしょう？今はテレビでも、一瞬一瞬。だからそれを10場面を出来るだけ思い出して下さい。で、全部で10。一番良いのは実際に死んだ人を見る事です。顔を見なくてもハンカチをかけても、そういう場面にいるという事が必要です。という事、本当の死ですね。頭ではなく。で、これが非常に重要な事になります。

で、あの炎を見ながら明快にそれを一つ一つ、昨日やった様に、愛の瞑想の様に一人一人明快にビジョンで観て行きます。で、最後に自分の顔を観ると。自分を観ると。で、その時

に、何時何処でどういう風に死ぬかという事が見えたら成功。これが正式なマラナーヌッサティ。良いですか？だから炎、炎を見て、炎を置いて、まず炎が自分の生命だと思いなさいと。はい次、お経を読んで行きます。

(パーリ語読経 続き)

Mahā sampattisampattā — Yathā sattā matā idha,
この世で誰が栄光を得て素晴らしい日を迎えるのでしょうか。

Tathā aham marissāmi — Maranam mama hessati.
誰も彼も死を迎えて行きます。死は必ずやって来ます。

Uppattiyā sahevedam — Maranam āgatam sadā.
生まれ落ちたと同時に死は始まります。

Māranatthāya okāsam — Vadhako viya esati.
死刑執行人がやって来る様に何時でも死は訪れます。

Īsakam anivattam tam — Satatam gamanussukam
命は一瞬にして止まる事はありません。何時までも続けて動いて行きます。

Jivitam udayā attham — Suriyo viya dhāvati.
太陽がドンドンドンドン沈む様に、また上がる様に。輪廻です、サムサーラ。太陽が上がって沈む。何時までも何時までも永遠に命は続きます。

Vijju bubbula ussāva — Jalarāji Parikkhayam.
死というのは一瞬の稲妻が落ちる様に、また泡が破裂する様に、また葉っぱの露が落ちる様に、また糸が水の中に沈んで行く様に。

Ghātakova ripū tassa — Sabbatthāpi avāriyo.
まるで敵が私を殺しに来る様に、死は絶対に避ける事が出来ません。

Suyasatthāma puññiddhi — Buddhi vuddhe jīnaddyayam

Ghātesī maranam khippam — Kātu mādisake kathā?

もし死が来た時に仏の偉大なる栄光が一瞬と出会えば、これは奇跡であり最高の恵みであり、それは最高の英知であります。これ以上の恵みはあるでしょうか？

Paccayānam ca vekallyā — Bāhirajjhattu paddavā
食べ物のために、また病気のために、またケガのために

Marāmoram nimesāpi — Maramāno anukkhanan ti.

その様に何時でも死は突然来ます。私達の死というのは一瞬の瞼を閉じる様にやって来ます。

という大体の直訳です。で、こういう事をまずパーリ語で唱えればお釈迦様の心が映りますので、凄く瞑想がしやすいはずです。で、まあ、そのまま今まで通り瞑想を続ける人はして貰って、ここで試したい人は試して貰って、後で、家でゆっくり帰ってやられる方はして下さい。

【参加者】

すみません、結局灯を見て10体の？

【水源師】

火をずうっと見ると。あなたの命はこのそよ風の吹く様な一瞬にして何時でも断たれる状態ですよ。結局、ロウソクあるでしょう？これは家の中だから安定していますね？ではなく、外に出して、こう、何時でも揺らいで消える様な状態の所に置いて下さい。それで、これが自分の命だと。で、もっとこう深くマインドフルネスになるわけです、死に対して。ただここではなく実際の灯の炎があなただという事によって、観る事によって、実際の事であると。普通はただここで考えるでしょう？何時でも瞑想は実際と繋がらなければ瞑想になりません。

【参加者】

その後に10体の・・・。

【水源師】

まあ、今お経ずうっと読んで、で炎をじっと見て。そしてその炎を見てあなたの命はこういうものであると。そしてゆっくり目を瞑って、10人の死の顔を観ると。で、最後にあなたの顔を観ると。

【参加者】

顔ですか？

【水源師】

自分、自分自身を観る。そしたらその時に大体何時何処で死ぬか見えます。それが正解です。まあ見えなくても、まあやっっていけば見えると思います。ゆっくり。禅定に入ればすぐ見えます。これくらい。第四禅定でやればすぐ観えます。でも普通の人はこの法随観で第四禅定に入るのは非常に難しいから、まあこういう風にして何回も何回も繰り返して行くうちに突然パッと観えますから。

このマラヌサティは一日で終わります。法随観の過程では、で、全て観てしまいます。でも第四禅定は普通の人持てないので、まあ2か月、3か月、4か月、そうして一生懸命やっっていけば1年かかっても、そしたら必ず観る事が出来ます。

【参加者】

さっきハンカチがかかっている状態でも良いって・・・。

【水源師】

良いです。

【参加者】

要は死体？

【水源師】

死体、はいそうです。

【参加者】

死体の顔というものの？

【水源師】

顔も見れば一番良いのですけども、普通は見られないですから、実際に死んだ死体の傍の情景が必要です。

【参加者】

僕らだとそんなに見られないので、インターネットとかで例えば死体とかの？

【水源師】

まあ仕方ないですね、それで、だからそれだけ効果が薄いわけですよ。私も数えるしかなくて3つかな？それくらい写真とか、写真ね。写真とかあの映画とかの情景の中とかそれ入れてやっとなら10にしましたけど。

そこがその西洋社会で住む人の一番の問題です。という事で、これで殆ど正しい見方が出来ない様になって来る。Right view。だからお医者さん方は非常に恵まれて、こう特別な状態にあるから、見えるから、修行が非常にしやすいと思いますけどね。でなければ結局ミャンマーとかね、そういうタイとかスリランカとかはもう見えますから、死んだ人、何時でも。死とは。でも西洋社会ではすぐ隠して絶対見せない様にするから、これで殆どもう、精神がコントロールされてしまいますね。

【参加者】

死んだ人の顔を、もちろん人が良いのですね？動物とかではなくて？

【水源師】

人、人。動物ではダメです。

【参加者】

人間の。最後、その自分の顔の時は自分の死んだ顔をイメージする？

【水源師】

自分の死体をイメージする。自分がどうしても死にますから。必ず死にます。私も死にます。その死んだ未来が見えます。

【参加者】

自分の死をイメージする？

【水源師】

イメージではなく本当に、本当に見えます。どこでどういう風にして死ぬか。

【参加者】

あれですよね、イメージするのは自分の顔ですか？

【水源師】

自分の顔で良いです。

【参加者】

今生きている顔？

【水源師】

そう、生きている顔。あなたの生きている顔、それが転じて、自分が横たわっている事が観えますから。

【参加者】

イメージが出たら、他の家族に話したら心配すると思うのです？その時話したら良いですか？話さないほうが良いですか？

【水源師】

それは、これはお釈迦様の修行の一つで、死と言うものの何かはっきり見る必要があります。と言うのは、死んで生まれて死んで生まれて繰り返しますから。この世はこれで終わりませんという事で。

【参加者】

ネパールで一人のおばあさんに私がこうやって瞑想の時にイメージ出来ました。それを話して、家族に話しました。イメージがはっきりして家族は、息子さんは私のお母さんに「死にま

す、死にます」そうになったら「死にます、死にます」という考えで心配して、自分の息子さんも早くに死にました。お母さん後で死にました。そしたら、話した方が良いですか？話さない方が良いですか？

【水源師】

それはね、カンボジアの偉いお坊さんが、ポルポトの時が出る前に、梵天が、神様、インドラが降りてきて「あなたをこれからブラフマの世界に連れて行きます」と。そしたらこの偉いお坊さんは、「いやーか月待って下さい」と。「私は皆さんにさよならを言った後で、そして行きますから」と。で、奥さんにも子供にも、皆、「私はこれからブラフマが来たから、天界に生まれ変わりますから心配しないで」と、「ショックを受けないで下さい」と。そして一か月後にすつと行きました。で、またこういうマラナーヌッサティをしていたお坊さんが、死んで今度は地獄に行くのを見たわけですね。ちょっと、とつてももう行きたくないから、今度は一生懸命一生懸命法随観をやっているわけです。

またこれも自分で見た場合は決定的、変わる事があります。ただしインドラとか第四禪定に入った時には殆ど確定します。ただし自分の意志で変える事も出来ます。死の時期を。で、この死と言うのは、これでおしまいではないわけです。また続いて行くわけです。また何処何処に生まれるかもしれません。

ですから、密教ではダライラマさんが「私はこれから何時何時死んで、何処何処を探してくれ」と言うのは、結局、何時何時死ぬのはマラナーヌッサティで、普通のお坊さん誰でも出来ます。今度何処何処に生まれるかと、天眼通。これは第四禪定でその未来を観る事によって観る事が出来ます。だから、ただ普通の場合は修行が出来ないから、お坊さんでもただ死んで行くと、お経を読んでおしまいですがけれども。やっぱり人を指導するとなったら、本当に。やっぱり、最低はそれくらい見なければ指導していけないわけです、経典だけでは全く空想になりますから。

それで南伝の方では、必ずこれは通過させます。通過しても最後まで行かなければ、やっぱりあとはダンマチャリヤー (dhammacariyā) と言って経典を一生懸命言う人、それはそれで。キリアチャリア (kiriya cariyā) と言うのは瞑想でしっかりした場合には当然ここを通過してかなければ、教える事が出来ません。良いですか？

ですから、そういう風に心配する人には黙って死んで行けば良いし、それで死と言うのを本当に知りたい友人だったら「私は何時何時、何処何処で死にますけれども、心配しないで下さい、私はこれから天国に行きますから」と。そしたら皆喜ぶはず。「私も行きたい」って。「私はこれから阿弥陀の国に生まれます」って言ったら「いや羨ましい」って、悲しまないです。

【水源師】

それでは、はい。では「瞑想してみますか？どうせまた明日、明後日。明日もう一回おさらいで愛の瞑想。メッターヌッサティ Mettānussati (慈随念?) で、その次もう一回おさらいでマラナーヌッサティ。もう一回繰り返して。あんまり沢山やればね、皆さんこうクルクルなってしまっても困るから。まあこれだけでも普通ね、一つの瞑想を教わるのでも大変な事なのです、一

生に一つ。それ出来るか出来ないかが殆ど。一つのお寺はたった一つの瞑想法しか教えません。だからまあ、私は教えすぎかも知れない。いろんな事。

まあ、そういう事で、はい。始めて貰えますけれど、何か質問ありますか。無かったらそのまま、いつもの通り。

— 瞑想 —



【水源師】

最も大切な事がこのお経の中にありますよ。死の直前に仏と繋がるとすればこれ以上の奇跡とか？宇宙の恵みはないと書かれているでしょう？ここ。今晚そのセクションをします？ですから世俗、愛の瞑想、観音様、その繋がりました、このまた大切な行法で、また簡単に出来る行法。でなければね、経典仏教で頭が痛くなる事で。でまた正しく見る「正見」が、この究極の繋がりがサティパッターナ (satipaṭṭhāna)、四念処。私の説いている事に繋がって来ます。

ですから私が今日本に持って来た教えは中枢の中の中枢の教えを持って来ているのですけれども。でも、あまりにもその難しいところだから、如何にして噛み砕いて、こう消化しやすい様にしようとするのが私の考えで。ま、そのまま頑張ってみて。



正しい見方で「渴望」をうまく使えば、次々と仏の世界に生まれることが出来る

【水源師】

大体このサンマーディッティ(Sammādiṭṭhi Sutta: 正見経)の中に、殆ど人間がどうして生まれてどうして死ぬかも大体概要書いています。ここに、で、一番大事な事は、まず「正しく観る」という事ですね。で、死においてどうして人間がまた母体に戻るか、生まれ変わるか、また他の生命体に入るかと。これをウパダナって言って、ちょうど衰え、えっと、ここですね。愛(渴愛)・取(執着)・有(そんざい)・生(うまれること)。このどうして、つまり生まれるかと。年取って老いて、そして生まれると。完全に生まれる事が無ければもはや、この世のドゥッカ(dukkha:

苦)の世から離れます。

この世はどうしてもドウッカ、アニッチャ (anicca:無常の)、アナッタ (anattā:無我)で、ドウッカ、その苦というのは避けられません。それで、clingingと言いますね、英語では。渴望。で、この渴望を上手く使えば、次から次と仏の世界に生まれる事が出来ます。で、この渴望が普通の渴望であれば、いっぱい食べたいとか、飲みたいとか、それから遊びたいとか、という事で、殆どは人間に生まれても非常に苦勞する所に生まれるか、でなければ四悪道の方に行ってしまう。

ただし、ここで渴望が「私は人に尽くしたい」と。いっぱいお布施して、いろいろな所を助けたいと。こういう行為の渴望はまた良い結果を生みますね。で「私はどうしてもアラハン (arahant:阿羅漢)になって涅槃の世界に行きたい」と。だからこの渴望という事ですね。普通の場合は、この渴望は世俗の渴望になるから殆ど良くないです。例えば「私は医学を勉強して人を助けたい」と。という事で何回も同じく生まれて人を助けます。という事は良い渴望なわけです。

でも「私はお医者になって名誉を沢山貰って沢山お金貰う」と。という事の渴望は暗き世界に行きます。サンカーラ (saṅkhāra:行)の関係で。で「私は世界一の学者になって、名誉も栄華も受けてその世界最高の学識を持つ」と。これは本当に人の為にやった場合には良い渴望だけれど、ただ自分の名誉とかそういう事になれば、サンカーラの関係で結局欲ですね、我欲。グリーディ (greedy)。グリーディがさっき言った間違った正見から、正しい目から、クサラ (kusala:善)、アクサラ (akusala:不善)のアクサラ。不善心になるから。どうしてもこの心が暗き四悪道に落ち込みます。

だからお釈迦様が94番目の転生した時に、もう激しい、魚も小さい魚一日一匹。それから牛のうんこを食べて、牛糞を食べて。そして森の中で、一人で住んで。それから暑い夏にはそのカンカン照りの野原で一日中じいっと修行して。それで夜はむせる様なジャングルの中に入って行って汗タラタラっと。強烈な苦行をしたわけです。もうこういう苦行になれば、もう世間は大聖者で、凄い噂が出るでしょうね。「わぁ凄い方がいる」と。というブラフミン (婆羅門)の修行をしたわけ。ところが死が近づいて来たら自分がどこに行くか見えるわけです。それだけの苦行をしているから。地獄に落ちて行くわけ。結局、激しい苦行をすれば必ずや良い結果が得られるというグリーディ、欲が入ります。それで地獄に落ちて行くわけですね。ところがやはり凄い方、菩薩様ですから。「一体何が間違っているか?」と。「こういう人間で出来る限界の苦行をしても、全く意味のない事なのだ」と。気が付いた途端に、これが正しい見方。それで地獄に落ちるところが一転して今度は天界に生まれた。この正しい見方をしたが故に一遍にこのサンカーラが変わってしまう。

だから皆「因縁因縁でもうどうにもならない」と。どうにもならないのは、正しい見方が出来ないから。それで「ではこのどうして渴望が良くもなり悪くもなるけれども、存在するのか」と。この渴望抜いてしまえば、もうもはや輪廻転生が無くなるから。で、それでアラハト (阿羅漢)になる方は、この渴望の原因を調べるわけ。どうしてこれが出来ているか。これは結局サンカーラそのものなわけだから、どうしても存在するわけ。

何故かと言ったら皆さん食べるでしょう? 食べないで生きる人間はいないですよ。これが

過去延々と続いて来ているから、ここでニュートリメント(nutriment)と。美味しい食べ物。必ずや食べるはず。これが結局、渴望と一体化しているわけ。またこの食べるというこの原因が性欲と関係して来る。だからそこらそんじゃ、そう簡単にこの渴望のインドラの罠から、梵天の網の目から出られない様になっている。だからこれをぶち破って涅槃の世界に行けるというサティパッターナの手法。これは凄い事なのです。

だから皆さん昨年紹介した身随観、受随観、心随観、法随観。やっぱりその基礎があるから、メッタ(慈悲)、まあ法随観の方です。だからその法随観の一科目をやって、完全にもう非常に高いところまで行って、もうメッタの法をここで受け取ったわけ。また花咲いて。また、マラナーヌッサティも結局、Cさんが何年も何年も法随観をやっていたものだから、ツーツと通過して、二つの法が日本にスッと花が咲きました。これは凄い事です。未だ誰も日本で教えた人がいないわけですよ。それをずっと体験してしまっている。だから法随観は難しいです。でもそれに向かって一生懸命やったお蔭で、法随観の中の一科目をやったらすうっと行ってしまふ。

「渴望」をどういう風な方向に持って行くかで決定される

で、日本はね世界一の仏教学なのです。インド哲学では世界一だと思ふ。この世界一の仏教、インド哲学をされている学者が実際の行法を誰一人教えていないと言うのは、これはまた魔訶不思議。経典では全て分かるわけですよ？でも本の中でおしまい。全く仏教と関係ない事をしている。全く仏教とは関係ないお遊びです。経典を読んで実際にその事を実現しなければ、これはお遊び。特に来世は危ないです。本当の事を知ったふりして本を書いて仏国の人を惑わすと。でなければ本当に知っているのだったら、皆さんがどうの昔に私が今ちよっと南伝で習った手法で具現化するはずですよ。

ですから、これはですね、皆さんは救われますよ。で、あなた方が一生懸命やれば仏教を知る知らない善良な方も救われます。ただし不正見、正しく見ない人ね、不正見の方々は、いろいろこね回したりこうする方は大変な事になりますね。

だから最初に私が西遊記の三蔵法師が「私を殺してくれ」と孫悟空に頼んだのはここにあるわけです。何の役にも立たないと。経典全てを覚えて榮譽を得ても、三蔵法師ですから。「私はこの魔女一人も助けられる力が無い」と。「これは本当のお釈迦様の教えを全く学んでないでくのぼうと一緒にだ」と。「生きる価値が無い。私は死んでこの魔女を助けに行く」と。まあ、でもこれは本当に深い真理を話していますよ。

だから結局、渴望をどういう風な方向に持って行くかによって決定されるわけです。それを94番目の時だと思います。お釈迦様が明快に分かったから、これだけの苦行をしても地獄に落ちて行く、間違った事をすれば。遊んで寝た方がまだ良いくらい。まし。また牛豚になって、地獄の苦しみは無いけれど。

私もその昔、王様に教える国師だったわけですね。全ての経典を覚えて。次の日は惨憺たるもの。次の世界は。ただし私の場合は20世前に、この比丘の姿で法を求めるといふ渴望。

もうありとあらゆる所を探しても見つからず、木の下で死んで行ったわけ。その高德、渴望によって白い牛になって、カクサンダブッダの傍にお仕えして得た法門が、「人の為に尽くさない。愛の中で生きなさい」と。という事を教えられたわけ。で、その偉大なカクサンダブッダの法門が故に今こうして長きに渡ってまた今ここにあるわけです。どうしてお牛さんがお釈迦様の言葉を聞けるのだろうか。そうでしょう？

お釈迦様とデーヴァダッタの不思議な因縁

お釈迦様がね、えっとこれは何代前かな、ちょっとお話しますね。お釈迦様がデーヴァダッタに殺される事したわけです。73番目の前世の時の話ですけれども。お釈迦様がね、竹林精舎で、ラジギールの竹林精舎で説法して、また瞑想する修行する所があります。その竹林精舎の側には今でも温泉があるのです。で、ラジギールの山はね、霊鷲山は、そこからテクテクテクと上がって、非常にその山の上は涼しくて風光明媚な所で、気持ちの良い所です。それでその時、比丘達がね、色々騒いでいるわけですよ。それでお釈迦様がね「一体、友よ。君達は何をお話しているの？」と。「いや先生、デーヴァダッタがあなたを殺そうという計画を立てています」。「いやあこれはね、今始まった事ではないですよ。前もそういう事がありました」。

で、またこれがまた不思議な因縁で、お釈迦様がある時、鹿だったわけ。で、デーヴァダッタがまた猟師だったわけ。で、この素晴らしい鹿を射止めようと思って、もう死に物狂いで追うわけです。その渴望。「殺してやる！」と、「獲りたい！」と。それが永遠に続いて行くわけです。ただその渴望によってね。他は何も関係ない「この素晴らしい、世にも素晴らしいこの鹿を撃ち止めたい」と。強烈な渴望があったわけですね、その昔。その因縁によって、いつもデーヴァダッタはお釈迦様を殺そうとする役をしなければいけなくなった。

で、そういう凄い方を殺そうと言う、もう最悪の状態でも、何時でも傍で生まれ続けるものだから、「殺そう」と言うこの怨敵憎しが何時までも何時までもついて行くわけ。それでとうとう彼はソーターパンナ(Sotāpanna: 預流果)になったわけですよ。流果。なかなかねれない。で、ソーターパンナでもやっぱり地獄に落ちて、長い事また。で、7代目には出て来てアラハンになるのだけれど。大体のしきたりでは。だから因果関係で、このデーヴァダッタは運良く、殺そうとしても殺す相手が偉大なものだから、その恩恵を受けてソーターパンナになりましたけれども、ただ一つ最悪な事は地獄の底、阿鼻地獄に行くか、それは凄惨な苦しみをどれくらいか分りません。

で、この話はですね、そのデーヴァダッタがその時、ゴータマ菩薩がその王国の北西の所で善良なブラフミンとして高德高い仕事をしていたわけ、静かに。このデーヴァダッタは、もう世にも恐ろしい陰悪な男で、忠告無しにバッサリバッサリ人を殺して行くわけ。嫌な奴だったらこう見て「これ嫌だ」パーンと殺して。彼の歩く所は死がいつも訪れるという、人が恐れおののく、そういう王子だったわけ。

それである日、このデーヴァダッタが、風が吹く荒れ狂った川に行って、使用人に「おいお

前達、私はあの川の真ん中で体を洗いたいからちゃんと用意しなさい」と。ところが使用人達は生きて帰れるかどうか。真ん中に入れば皆死んでしまうと、生きて帰れない。で、それを命令されて。それで命令に従わなければ殺されるし、問答無用で「何故しないのか」と。それで、「いやデーヴァダッタ王子様、ちゃんと用意出来ました。川に入って来て下さい」と。

ヘビさんは後の舎利弗、ネズミさんは後の大目連、オウムさんは後のアーナンダ

ところがその使用人はね「いやあ、私達は皆殺しにされるか死ぬか、どちらかしかないから、来たら川に沈めてしまおう」。それでデーヴァダッタ王子が来た時にこう水の中に入れて、バーンと水に放して沈めちゃったわけ。で、荒れ狂う川だからね、生きては帰れない状態だった。それで、まあ絶対生きては帰れないのだけれども、何故かこのデーヴァダッタは丸太が来てそこに掴まって流されていたわけ。そしたらその時にヘビがね、ちょうど水が上がって、それで川に流されて、でヘビがその丸太に上がったわけ。またそのうちに、その近くのネズミがまた上がったわけ。そしてそのうち流されているうちに、オウムが止まっていた木が水で木が倒されて、雨で川に落ちて、それでドンブリコーンと行って、それでオウムも止まるところがなく、その丸太に上がったわけ。それで善良なゴータマ菩薩がそれを見て「おおこれは助けなきゃいけない」と。荒れ狂ったその川にドンブリコーンと入って行って、一気に引き上げて来たわけ。

そして引き上げて来てね、それでまずヘビを大事にして、餌を与えて、それでまあ部屋の中は火を点けて温めてね。そしてまたネズミにも、また次に介抱して大事にして。それでオウムさんが三番目。四番目のデーヴァダッタ王子は最後だったわけ。で、ヘビさんはね「いや何と素晴らしい方でしょう」と心から尊敬したわけですね。そしてネズミさんもそうだった。それでオウムさんもそう。ところがデーヴァダッタは「私は尊い生まれの王子なのに、何故最後に手当するのか」と。また食事もそういう順番で行くわけ。そしてもう心は完全に煮えたぎって「何たる無礼な男か」と。そう、口には出さないけれどね。もう、そこでもう弱り果てて何時死ぬか分からないから。おくびにもそういう事は出せないから一生懸命隠して。それで全部、体が治ったわけです。

で、体が治った時にヘビさんがね「私は40の大小判の黄金を持っている」と話したわけ。ちゃんと話出来る。私もカクサンダブダからちゃんとお話聞くわけ。で、またネズミさんがね「私が30の大小判をその川の淵に埋めて持っている」と。何故かと言ったら、このヘビさんはその国の大金持ちだったわけ。一生懸命お金を貯めたわけ。で、死ぬ時に、その前に、川の側に隠しておいたわけ。その因縁によって、結局渴望ですね。渴望によって、その川の側のヘビに生まれた。で、その黄金の金塊を守っているわけ。またネズミさんも一緒なわけ。ネズミさんもまた大金持ちで、30の大小判を持って隠した理由は、そのネズミに生まれ変わる前に、この方もまた大金持ちだったわけ。死ぬ時の心配はこの黄金の塊だったわけ。だからその川に隠していた。そして生まれ変わったのがネズミさんで、結局、その小判を守っているわけ、大小判、金塊を。で、そのオウムさんはヒマラヤの素晴らしい所に住んでいるオウムさんで、まあ、そういう事で、前世の事、何て言ったかな？あんまりここには書いてないけれど。

それでね、そして今度、助けられる時に、へびさんは「ゴータマ様、私は40の金塊を持っています」と。「是非この金塊を使って下さい」と。「いやいや、私は今使う必要がないから、使う必要があったら受け取りに来ます」と。「あ、そうですか」と。で、へびさんは去って行ったわけ。ネズミさんは「やあ、ゴータマ様、私は30の金塊を持っています。川のそばに隠していますから差し上げます」と。またゴータマ菩薩は「いやいや今は要らないから、後でまた」と。で、オウムさんは「やあ、ゴータマ様、私は金の塊は持ってないですけども、あなたが必要だったら何時でも今すぐにお米を沢山、山ほど持って来ます」と。「私にはたくさんのオウムの友達がいる、お米を野原から取って来て差し上げられます」と。ところが「いやいや今は要らないです」と。それで最後にデーヴァダッタ王子が「やあゴータマ様、是非私のお城に来て下さい。手厚くお申ししましょう」と。内心は「如何にして殺してやろうか」と。来たら。

それでゴータマ菩薩がその後、しばらくして、へびさんの所を訪ねて行ったら「まあゴータマ様良く来ました。金塊がここ、ここありますから持って行きますか？」と言ったら、「いやいや要りません。ただ挨拶に来ただけである」と。「今は要りません」と。またネズミさんも、「やあゴータマ様、良く来ました」と。「今すぐ金塊をあなたに差し上げます」と。「いやいやいや、要りません」と。「今ただ挨拶に来ただけだ」と。それでオウムさんの所に行っても、「今すぐお米全部持って来ますよ」と言ったら「いやいやいや、後で良いです」と。

今度、ゴータマ菩薩がデーヴァダッタの宮殿を、その街を訪ねに行ったわけですね。ちょうどこのデーヴァダッタ王子が、王様が亡くなって、彼が王になったわけです。その後。そしてその時、街を象の上に乗って練り歩いているわけです。ダアアっと。「私は王様だ」という事ですね。「皆私に尊敬しろ」と。尊敬しなければ、大変な事になるでしょう？すぐ殺されるし。それで、もう遠くからあれはゴータマだってすぐ分かるわけ。それで家来に「あれを捕まえて、手足を縛って、街中を引き歩け」と。で、まあ言われたから、とっ捕まえて、そして最後には「串刺しにして首を打ち取って、持って来い」と。恩を仇で返すどころの話ではない。あはははは(笑)。

それでゴータマ菩薩はあっちの角、こっちの角で言うわけです。「ある男は助けられたのに、丸太に乗って死ぬところを助けられたのに、その恩を知らない」という風な歌を歌うわけです、あっちこっち。そして最後の死刑場に来たら、傍にいた年取ったブラフミンとか善良な人が、「一体あなたは何の罪でこういうひどい刑を受ける事になったのですか？」と。「いや実は私はこのデーヴァダッタ王を波立つ川から拾い上げて、そして助けたのだけれども、私は今こうして殺される運命にあります」と。皆、街中が今度はびっくりして。と言うのは今までのデーヴァダッタの行状がもう、凶悪無残な血も涙もない事ばかりしているものだから、もう街中が怒って、槍や弓矢や石やこん棒から皆持って、彼にウワーッと行って殺したわけ。で、死体を引きずってボーンと投げてね。で、今度はゴータマ菩薩にお願いして、「あなたこそこの国の王様になって、この国を治めて下さい」と。で、今度は王様になったわけ。

これ本当の話ですよ？お釈迦様の前世の話。まるでおとぎ話でしょう？へびさんと話をする、それからネズミさん、それからオウムさん。私は牛でカクサンダブツダ様から教えられて、ちゃんと覚えています。それで助けたへびさんはまた後で城に呼んで、逆に40の黄金を与えて、金で作った小さい祠に住ませて。ネズミさんは30の黄金、金塊を与えて、そしてクリス

タルの穴に住ませてね。そしてオウムさんには金のカゴに入れて、大事にして毎日最高の食べ物を食べさせたわけ。

何故かと言ったらこのへびさんは後でシャーリプトラ(舍利弗)に生まれ変わったわけ。最後。見えるわけなのか何か知らない。で、このネズミさんは後で大目連になったわけ、神通第一。で、最後のパロット(parrot:オウム)さんはアーナンダ。という風にいつも因縁があればついて行くわけ。で、うまく大事にするわけです。人間の形をしようが動物であろうが、いつもこういう関係で行くわけです。

という風にさっき言った、結局どうして生まれ変わるかの原因はグリーディ(greedy)、渴望と言いますね。その渴望が良い方になれば、こういう風に結局いつまでもお釈迦様の傍でいろんな形で一緒になって、最後には大目連様もシャーリプトラ様もアーナンダ様も皆アラハトになったでしょう？という風に、その法の中で生きたいという渴望がどこかであったはず。私の体験からすれば。だから死の瞑想で言ったでしょう？もし死ぬ時に仏界と縁を持ちたいという事があれば、これは最高の最大の宇宙の恵みを受けると。それが法華経の「火宅の長者が出ておいで」と。「何でもあげる」という事なのです。

小さな蚊を弓矢で撃ち落とそうとする「Fool」愚か者

で、今はね、私達は本当に馬鹿だから、こういう事をすんなり信じられないわけなのです。その原因はですね、お釈迦様が44番目の、1番から生まれ数えてね、の時に商人だったわけです。で、その時に非常に愚かな事をする人を見たわけ。何故この話が出たかと言えば、結局お釈迦様の比丘・比丘尼達が、食事を貰いにピンダパータ(piṇḍapāta:托鉢)に出て行くでしょう？で、ある村に差し掛かったら、人がゴロゴロ倒れて傷ついているわけです。何故かと言ったら、その村の人達が森に入って行ったら、いつも蚊に刺されるわけです。バーツと全体。それで皆、討論して「この蚊を皆で退治しなきゃいけない」と。退治するのに弓矢、刀で退治しようと。そして退治するどころか、皆傷ついてそこで横たわっているわけ。で、お釈迦様が来るから、その村に残った人達がもうびっくりして、すぐ旗を立てて準備して食事をあげたわけです。そしてお釈迦様に「何故この人が倒れているか？」と。ね？「うん、これは今始まった事ではない」と。「前もこんな事をしている」と。「非常に馬鹿な事をしている」と。

実は私が44番目の、1から数えて前世の時に、さっき言った様に「私が商人だった」と。で、「そこを通りかかった時に、ちょうどそこに大工さんがいた」と。で、頭はツルツルになるくらい日に焼けて、それでそこに蚊が飛びついて、もう痛いわけです。それで息子にこう言ったわけです。「息子よ、この蚊を退治してくれ」と。で息子が「はい」と。「もう一発でこの蚊を殺してくれ」と。「はい」と。そしたら何と、もう物凄く研がれたまさかりで、頭を後ろからバーンと打って、頭が真っ二つ。という大馬鹿なわけです。普通は手でペチャッとやるか何かでしょう？まさかり。それもとっても鋭い。同じ事をやっている、繰り返して。

ところが私達は原爆で人を殺すでしょう？ブワーツと。科学の名のもとに。似ていませんか？正義のもとに、ある国を攻めて行って、ブワーツと殺すと。フールと、英語ではフールと

いう。fool。馬鹿者、馬鹿、私達も大馬鹿達。大馬鹿者。経済的にもありとあらゆるところを見たら繰り返すわけです。正気ではないわけです。今、誰でもそんな事はしませんね？でもその大昔、過去永遠の昔は、でもまた繰り返しているかも分からない。理由をつけて。人を生贄にしてみたり、色んな事があると思いますよ。理由をつけてお祭りして。

という風に正しくものを見る事が出来ない。正しくものを見る事が出来ない世の中。だから皆が賛成すると「おお、そうだそうだ」と槍を持って森に入って、小さい蚊を弓矢で撃ち落とすと。挙句の果て皆傷ついて、お互いに。これ実際に起こった話。でもこの話皆さんにしたらね、空想物語で西遊記の孫悟空の話に似ているなあくらいで、そうでしょう？でも皆さん体験されたこのお釈迦様の法を受け、ちょっと体験されたわけですけど、もう想像を絶する手法を私達に与えて、お釈迦様が言っている事だから。もうこの事を信じられないくらい私達は fool。阿呆、アホ、超大アホなわけ。まあ、そういう事でね。

全世界は3つの都市に制圧されているが、法を受け取る土壌が出来ている日本

で、如何に私達はその大アホで生きているかって言ったら、昔、ギリシャにそのシティステイト(city-state:都市国家)って、アテナ。スパルタ。そう、全部地中海はトロイヤにしろ、全部、バティカンみたいに小さい市が国家になっているでしょう？今この全世界は三つの都市によって完全に制圧されています。バティカンシティ、ロンドンシティ、ワシントンDCシティ。全然変わらないわけですよ。三千年前のギリシャのシティ政治と。その町の中では、「おいお前」と、皆分かるわけ。嘘隠し立てない。そこで悪い事したら追放されるし。で、バティカンは完全にメンタルと心を統括する。ロンドンシティはお金を完全に統括する。ワシントンDCはペンタゴン、武力。この3つ。これが滔々と続いて来ているわけです。バビロンからスメリアから。

ところが、ハイパーボレア(Hyperborea)の北から出て来た人はこの2つに分かれたわけね。一つはインダス川のヒンドゥ。で、心をずうっと開拓して行って、そして偉大なお釈迦様が出たわけ。ちょうどね、アトランティスが水の中に沈む前に、一つの派は科学的な事ばかり追って、もう一つは精神界を追った二つのグループがあると。結局ハイパーボレア、北の北極から下りて来た時に、スメリアの科学的なグループと、インドのアーリアン系の、結局ヴェーダという五千年前の詩を読んでも、心の宗派と二つに分かれている。で、今も綿々と続いているわけ。そう簡単に変わる事はないわけです。

で、私達は幸い仏国に生まれて、心が如何に大事かという事が、社会の仕組みの中にしっかりと組み込まれているわけ。特に日本は、今、今日、食事しましたね？朝、昼。あれ完全にお寺の作法の食事。だから毎日あなた方が食べているのは、お寺で食べているのと一緒になのです。さっき言ったでしょう？食べるという事が非常に生死に関係して来ると。食べるという事は、直接、生殖に関係して来ると。一体化して行く。強烈なもの。これがグリーディと言う渴望で転生すると。だから抜け切れる事は無いわけなのです。ただしこの日本の場合は、お寺の食べ物を食べているから。どうしても心が仏と繋がる様に出来ている、非常に天才的な社会システムなわけ。

何故それが分かったかと言ったら、私が韓国第一名刹の通度寺に行ったわけです。そして王子様みたいに大切にされて、出された食事は純、純日本食。お寺ではそれ食べる。お寺の外では韓国料理と、全く別。辛い物も出さない、ニンニクも出さない、全く純日本の食事。「あ、なるほど。これで日本の食べている一般の食事は全てお寺から出ているのだな」と。まあ昨年、万福寺。食事で超有名な(笑)。という風に天才的な方が、お坊様が日本に居って、この仕組み、寺子屋、それから食事。で今でも村がお寺を守る様に。やっぱり、凄く良いものがあります。

それを如何にして西洋がこれを潰しにかかっているかという事。皆さんは分からないでしょう？全然分からないでしょう？「美味しい物を食べましょう」って。ね？それで何か知らないけれど、盂蘭盆何とかという事があるみたいだけれども、昔から、そういう風に、もう完全に狂わす様に狂わす様に出来ている。

だから昔の方はもっと生命帯が少ないけれども、生命寿命帯ね。今皆さんはもう80、完全に悟りを啓ける、受け取る条件にあるわけです。やっぱり生命帯が50だったら非常に難しい。80となれば、やっぱりお釈迦様は80で他界されているから、やっぱり国家としてよ？国家としてその長い短いがあるけれども、やっぱり法を受け取るその土壌は出来ているわけ。ボリビアは結局、生命帯が53年でしょう？難しい。

だから今ちょうど、何かの理由によって、私も知らないけれども、こうしてお釈迦様の法灯を渡す事が出来て。去年も渡し、また今年もちょっとしたらすぐ受け取ってくれて。まあまあまあ、私は本当にニコリ笑える人生って言ったら、何かまた天狗なのかな(笑)？まあ栄光受けています。ま、そういう事でどうでしょうか。

質疑応答

現代の社会は正しく見られない様に作られている

【参加者】

先程まさかりで頭を割ったというお話があったと思うのですが、聞いた感じだと割ってしまった本人はあまり悪意がなかった様に思われるのですが、やっぱり正しく物事を見られなかったせいで、やっぱり次の生は悪い生になってしまうのですか？

【水源師】

そうですね。だから結局一番最初にお話した、お釈迦様が地獄に落ちる事をしたと。あれだけ正しい修行をしていると、私達には見えるけれども、実は正しくなかったという事に気が付いて、それで天界に生まれる。だから正しく見るというのが第一番。これによって全て通過して行くわけです。全ての法門。これ正しく見られないという風に、手を変え、品を変えて現代の社会は作られています。でもこうして皆さんが集まって、こうして私のお話を聞いてくれるので、凄い希望はありますね。特に日本は寿命帯が80歳以上だから、凄いチャンスがあるのだけれども。まあそういう事です。

心に仏を入れなければ魔が入る

【参加者】

最初の日か二日目だったと思うのですが、心に仏を入れなければ魔が入る。一度入ったらなかなか出て行かないのだ、ってお話しされた様な気がするのですが。

【水源師】

そうですね。

【参加者】

それがこの出て行くって時にはどういう事で魔が出て行くわけですか？

【水源師】

やっぱり、誰かに救われなきゃ殆ど無理ですね。そういう法を持った人にとって貰うか。出て行って貰って、それに仏を入れる気があれば。だってね、魔でなくてもね、幽霊が一旦入ったら出ませんよ？これ現実の話ですよ。私が言ったでしょう？昔、ミャンマーでも起こったでしょう？カナダでゴロゴロゴロゴロ皆、幽霊が入って「この家が良いな」と。この体は旅館なのです、旅館。悟家一客と。私達はお客さん、この体に入っているお客さん。で、このお客さ

んが結局心から仏を入れてなければね、この体に魔がちゃんと座って、「有難う」と。で、自分が何をやっているか分からない。

だから日本で最高の頭脳を持って、最高の榮譽を持っている、法務省の裁判官を教育する裁判官指導員が、結局、階段の下からパチパチ女の子のスカートを撮っていた。この方は絶対に素晴らしい心と頭脳があるけれども、結局、魔が入ってしまっているから。普通だったらね、正しく見て、そんなに女の人の足が見たかったら、ビーチに行くか、スイミングプールに行ったら幾らでも見られる。何故。何故わざわざ階段の下から。理解が出来ないです。普通。いや本当に。もうカリビアンに行ったらおっぱいも出して見せるから。で、堂々と歩いているのに。そこに行けば良いだけの事。お金もあるし。という風に、誰からも文句言われなくてすよ？

ただその法務省の中では、「お前カリブ海に行って何してきたの？」って。遊んで、とか言われるけれど、「いやビーチに行って女性の体見て来ました」って言ったら怒られるだろうけれどね。まあ一般の社会では何もおかしい事ではないし。素晴らしい女性が泳いでいるし、オリンピックでも女性がサーっと泳いでも変に思わないでしょう？奥さんは別としてね。旦那が必死に見てたらパチッと、「何、女性の体、オリンピック。あんた本当に見ているの？」と（笑）。まあそういう事ですけれど。

【参加者】

正しく見るって凄く難しい。正しく見る、正見。凄く色々、この世の中の体制が正しく物を見させない様に、手を変え、品を変えやっているっていう話をされたと思いますけれど。で、先生のお話は正見が大切だっという事と、それから正しく見る事っていうのはこの世の中とっても難しいんだっという事をお話されたと思いますけれど。

【水源師】

はい、そうです。

「うぬぼれ」「無知」「欲望」この3つが入っていなければ正しい見方

【参加者】

でもそれ、正しく見る事はとっても難しいって言うだけで、ではどうやったら正しく見られるのかっていう事で。

【水源師】

はい、それで、ここに書いてあります。良く質問してくれました。それを簡単な方法で教えます。いっぱいゴチャゴチャ言えばね、頭がクラクラして、出来ないので。どこだったかな？経典持って来ますので。蛾もお話聞きに来るわけですね。えーつと、これは昨日説明したと思いますけれども、まあ、こうです。

「自惚れ」と「無知」、それから「欲望」と言うか、この3つですね。ラスト(lust)と言う、こう、競馬に行くとかそういう、そのグリーティではなく、もっと渴望と言ってもラストというのは結局、自分だけと言う、アッタの「自分だけ」と言う、一人だけが良ければ良いという渴望。法を求めると言うのは人の為にもなるから、結局アナッタのエリアに入るから。「我」。我の天狗。それから私の欲望、それから、我による独断。これを「無知」、本当でなくても私の言う事は全て正しいという無知。この3つ。この3つをしっかりとどこかに入っていないと、もう正解。これを深く見て行って、もし間違っていたら必ずこの3つのうちのどこかに入っています。これが正しく見ていないと。この3つを外してしまえば、必ずや正しく物を見ていると。

もう一つは、心に手を当ててスッキリした場合には、簡単に間違っていないのだけれども、ただしこれは洗脳されてね、洗脳されて分からない事があるわけです。何故かと言ったら、「お国の為で死んで行くのは、これは桜散る、武士道最高の事で素晴らしい事であるから、もう命を捨てて行くのは、良い事だ」と。そう洗脳されて人の為という事があり得ます。ただこれが間違えて操作されて行く事があります。でもこれを深く考えて、人間として生まれ考えた場合には、おかしいと。

与謝野晶子さんですか？「我が弟よ、死に給うなかれ」。もう国賊ですよ、その時は。たった一人でも。そういう素晴らしい方が日本にはいますよ。でも、もう凄い圧力で潰しにかかって来るでしょう？ 本当の事を言えば。でもこの方は本当の事を言って、心に憂い無いから良い所に行きますけれども。逆にこの事を徹底的にいじめた方達は、今とても暗い四悪道の中にいると思いますよ。それで良いでしょうか？

実態は超スーパーテクノロジーで綿々と続いている

【参加者】

はい、あの「自惚れと欲望」ってのは凄く良く分かるのけれど、「無知」って言うのに気づくのは凄く難しいですよ？

【水源師】

そう、そこです。イグノラント(ignorant:無知の) 何故かと言ったら結局お話した様に、私が小さい頃に、「空飛ぶ円盤」と言ったら大キチガイ。という風に社会が仕組んでいるわけ。何故かと言ったら1920年にもはやドイツ政権と宇宙の人が交信して、もうドイツ円盤がUFOがあるわけなのです。その文献はアメリカの方から出ています。それから1935年にナチスジャーマンがUFOを作ったと言う、交信して作ったと言うけれど、その前にあるわけ。何故かと言ったら、ウィンストン・チャーチルがアメリカに頼んだわけです。「海の彼方、底からUFOみたいな不思議な物体が上がって来るから調べてくれ」と。もう知っているわけなのです。そういう文献が出ています。

そして日本に原爆を落として、作れた理由は、1941年にアメリカに空飛ぶ円盤が撃ち落とされたか落としたわけ。落ちてそれを解体して、それでオッペンハイマーが原爆作れたわけ。

だから「1947年にローズウェルで空飛ぶ円盤落ちて」と言う、その前にもうあるわけです。それを解体して原爆作って、日本に落としましたけれど、その技術によって。だからそれを隠していますけれど、これは宇宙的なテクノロジーです。その円盤は1941年4月9日(4月12日のようです)に落ちて、フランクリン・ローズベルトがね、死んだのは1944年の4月9日(4月12日のようです)。4年間の後。で、その後突然ローズベルトが死んだから第三期で、トルーマンが副大統領でその後に座りましたけれども。

だから実態は、私達はそういう超スーパーテクノロジーで綿々と続いているわけです。で、今現在空飛ぶ円盤はアメリカ製のUFOと本当の外宇宙的なUFOが2種類あるみたいです。特に三角形のUFOはアメリカ製だと。という風に、ではなぜ私達は1969年にロケットを打ち上げて最初にムーンランディングしたと。ね？で、もう世紀の快挙と。そう言っているでしょう？で、今中国が月の何か、月のウサギ(嫦娥3号・玉兔号)というランディング(月面探査機?)。ランディングを降ろして写真撮ったら、アメリカの最初のムーンランディングの情景と全く違うわけなのです。無いわけ。そしたらエリア51には大体5マイルくらい、7、8キロくらいの巨大な洞窟があって、そこで全部撮影したと。ただ私が最初にこう学生の時にね、アームストロングが月に降りて、「一体誰がこれ撮影したのだろうか」と、不思議に思ったわけ。で、全部セッティングが映画みたいに見えるでしょう？「いやー、どういう事なのだろうか？」と。実際に降りたには降りたけれど、そういうテープがあって同時に流したみたい。

という風に、911にしても、こういう風に、巨大な大嘘には私達は殆ど抵抗出来ない。ただ半信半疑で「私が間違っているのだろう」と、私の見方は。もう世界中が大騒ぎで「凄い凄い」と。騒いで、ただいつもその疑問に思ったのは、アームストロングが降りて来るところがちゃんと映っているし、すぐに飛び立つところも綺麗に映っているし、こういう事あり得るのかな？と。そしたら『2001年宇宙の旅』、space odyssey 2001。この監督が作ったと言っています。

【参加者】

スタンリー・キューブリック？

【水源師】

そう、その前にずうっと昔。セッティングして。だから結局そういう風に、1920年代だと思います。プリンストン大学で、世界のアカデミーをどういう風にコントロールするか、そういう仕組みがあるみたいで、その人の名前とその本の名前も私は持っていますけれども、ただし時間がなくて文献で調べられないけれど。それでもう完全にセッティングされているから。で、学校でそういう風に習って行ったら、間違いだとバツで行けないでしょう？これ完全に正しいと、全部覚えこまされたらマル、マル、マルで、どんどん行くでしょう？だから本当の事を言ってもそれは大嘘だとなるわけ。

それにメディアが完全に隠す、そういう学会も全部それを否定した場合にはお手上げなわけ。と言うのは、現代人は3万年前に発生したと。私は教科書に習ったわけですね。その昔。「あ、そうなのか」と。ところが、20年かそこら前に「いや、ミトコンドリアを調べたら20万年前にアフリカでもう発生している」と。クロマニヨン。は。「おかしい」と誰も言わない。という事で結局

太古の遺跡を調べたらおかしな事がいっぱい出て来るわけ。知らないからほっとくわけ。で、都合の良い事があつたらちゃんとそれが正式だという風に。

まあ言えば山ほどそういう現実がどんどん今は出て来ますけれど、コンピュータのおかげで。昔は文献だからね。殆ど調べられないけれど。で、今は調べ方によっては私が今さっき言った様に文献が調べられて、実際今もう情報公開になるわけです。50年前、70年前の文献は。それで正式に私の言った事は載っています。

宇宙人もかなわないスーパー叡智で出来ているダンマ・仏教

そういう事で、また今日も驚愕するような話ばかり。良いのでしょうか？ただあまり私が科学的な事と仏教の事、あまりにもピタッと合わせるので不思議でしょう？と言うのは、仏教は科学を超えたものです。私が紹介した海潮禅は、結局あれはスターゲートと一緒に事で、あのクリスタルはスターゲートなのです。そして全てこの世にある文字あるでしょう？この文字、書かれています。これは自動ソフトプログラム。あなたが分かっても分からなくても、ソフトプログラムになって全てコントロールしている。という摩訶不思議なこの世の中。

でもお釈迦様の法から見たら摩訶不思議でもなく、まあごまかしの手品みたいにサササつてやっているわけ。でも心は、結局さっき言った様に、想像を絶するスターゲートがちゃんと現れますから。そういう風な、スーパースーパー叡智で出来ているわけ。仏界で。だから如何に宇宙人が頑張っても敵わないわけ。宇宙人でも下の方はこんな事をするけれど、上の方は全然、もっと精神的な事を求めます。それも善悪二つ対立してやっている。

ここはその面白い話聞きに来たみたいで(笑)。と言うのは心を今、大きく開いているわけね。ドンドンドンドン。という風に「偏見を持たないで見て下さい」と。で、間違っているかどうかは英語であれば調べやすいけれども、日本文献では難しい。何故かと言ったら日本で通訳されたものは独善的に書かれているものがいっぱいあって、本当に英語で書かれた文献とは違うところがいっぱいあります。

瞑想は「体験者」だけが書ける、通訳者は書けない

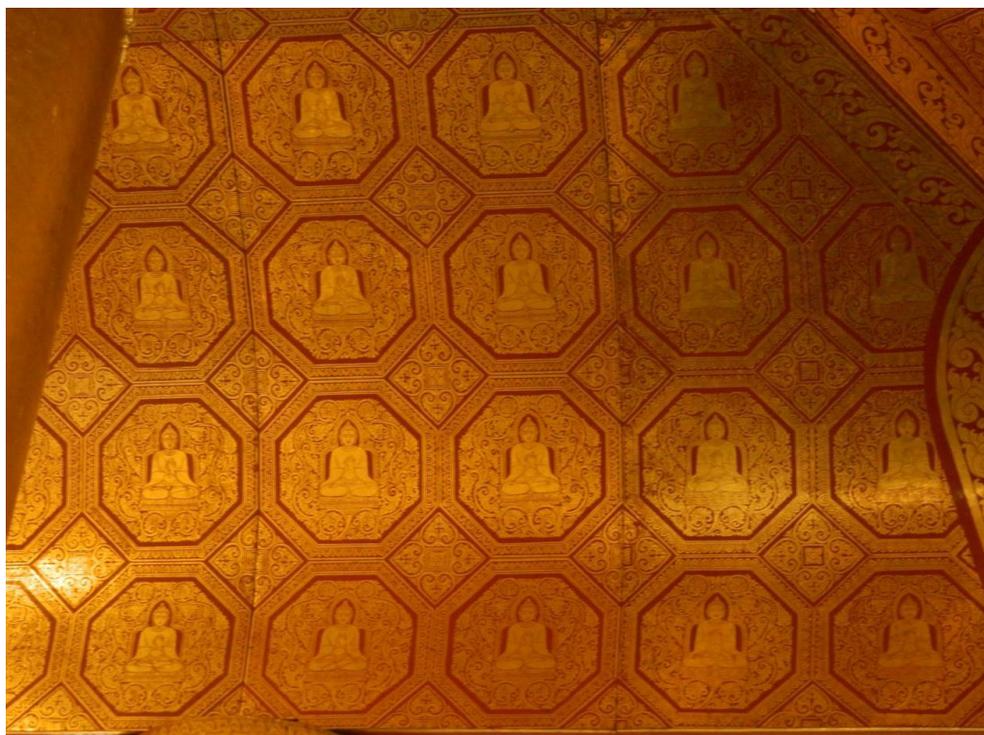
だから結局私が去年、受随観やった時に、結局違う事が発生したはずです。習っている方と、私がやっている事。で、ただ違うのは私の方法でやったら上手く行った方がドンドン出て来て、それで訳したやつ(ゴエンカ氏の手法の日本語版)でやったら、必ずや障害を起こすか進めないという状況が発生しているわけです。つまりポイントを外しているわけですね。訳す所が分からないから。この文献を訳す、特に瞑想は体験者だけが書ける事であって、通訳者は書けません。体験してないから何を意味しているか分からない。どんなに天才的な、言語学者であっても、想像であって実際とは違うわけ。

だから家を建てる時にね、大工さんは線引きでその意味がすぐ分かるけれど、政治家が

線引きとかそんな言葉使っていますけど、目線とか。目の位置が変わったら全然違う所切っちゃう。だから体験でしか分からない。目線というのはね、結局線引きする時にちょっとしてこうやったら、外れるわけですよ。そうでしょう？で、外れて線引いたら何万円もする柱がパーでしょう？それを目線と言います。ところが新聞で書かれる目線とかそういう言葉、政治家が言うけれど、目線が違うって、本当にどの事を言っているか、体験ではなく言葉だけで言って、皆、目つきが違うのかな？とか。でも大工さん達は、皆これはピターっと間違いない言葉だけれども、体験無い一般の方々は、想像で書いて理解するから、結局瞑想も一緒です。

体験者だけが書いてある内容がどうであるかが良く分かるけれども。体験してなければボケてしまいますね。そのボケが恐ろしいと。と言うのはもうお釈迦様の教えはもうコンピュータ以上に正確で、もう凄いものであるから、結局皆さんがやっぱり今まで見た事ない事もドンドン体験したでしょう？想像を絶する事が発生したり。つまり本当の教えに逢えば、これがすぐすうっと文献が分かるけれども、本当の教えと言うのは体験しない場合には非常に難しいと思う。分かるのがおかしいくらい。

という事で正しくものを見ると言うのは、結局自分の体験が第一だと思います。自分の頭が狂っていたら仕方ないけれど。美味しいものとかね。特に今日彫刻したでしょう？あれは素晴らしい物差しになります。間違ったら間違っただけで出て来るでしょう？で、全部使う、五感。体。身口意全て使ってやるから。感触から、木の匂いもちょっと入るし。匂いの味も分かるし。という、それで聖なるものを彫りますから、結局心が進化しますね。で、これは本当の事であるから。実際に彫って行くから本当の事。



水源禪師法話集 62
(2016年9月21日 大阪合宿5日目)

2017年3月19日 発行

編集兼発行 一乗禅の会